

第 1 回 伊丹市行財政審議会 議 事 録

伊丹市行財政審議会

1. 日 時 平成26年11月4日(火)
2. 場 所 市役所東館3階 会議室
3. 出席者 **【委員】**
明石委員、黒瀬委員、田爪委員、角田委員、仲野委員、藤原委員
松尾委員、和田委員、天米専門委員、池田専門委員、庄野専門委員
(欠席：田中専門委員)
【事務局】
榊村総合政策部長、後藤財政基盤部長、今村政策室長、
須磨財政企画室長、前田施設マネジメント課長、
宮木政策室主幹兼施設マネジメント課主幹、濱田経営企画課長
4. 傍聴者 なし
5. 次 第 (1) 開会
(2) 委嘱状交付
(3) 市長あいさつ
(4) 委員紹介
(5) 事務局紹介
(6) 会長・副会長選出
(7) 会長あいさつ
(8) 諮問
(9) 議事
①議事録作成及び署名委員の指名について
②「伊丹市行財政審議会傍聴要領(案)」と会議の公開について
③「伊丹市行財政の現状と課題」について
④「伊丹市中長期財政収支見通し(平成26年10月版)」について
(10) 意見交換
(11) 諸連絡
(12) 閉会

- (1) 開会 (省略)
- (2) 委嘱状交付 (省略)
- (3) 市長あいさつ (省略)
- (4) 委員紹介 (省略)
- (5) 事務局紹介 (省略)

(6) 会長・副会長選出

- 事務局
 - ・ 「伊丹市行財政審議会規則」第6条第2項において、委員の過半数の出席で会議が成立すると定められており、本日は過半数の委員が出席なので、審議会は成立している。
 - ・ 同規則第5条第1項の規定において、会長・副会長は委員の互選によりこれを定めることとなっているが、先に事務局案を提示させていただいてよろしいか。

<「異議なし」の声あり>

- 事務局
 - ・ では、会長は現在、本市の行政評価外部評価委員でもあり、本市の事務事業の内容等に精通いただいている神戸大学大学院教授で業績管理や公会計等をご専門の松尾委員にお願いできればと考えている。
 - ・ 副会長は他市においても公共施設マネジメント検討委員会委員等でご活躍されておられる大阪学院大学教授で経済政策や競争政策等をご専門の和田委員にお願いできればと考えているが、いかがか。

<「異議なし」の声あり>

- 事務局
 - ・ 事務局案にご賛同頂けたので、会長を松尾委員・副会長を和田委員にお願いさせていただきたいが、了承いただけるか。

<松尾委員・和田委員 了承>

ではここで、松尾会長から一言、ご挨拶をいただきたい。

- (7) 会長あいさつ (省略)
- (8) 諮問 (省略)

(9) 議事 ① 議事録作成及び署名委員の指名について

- 会長
- ・ 「伊丹市審議会等の会議の公開に関する指針」第5条第1項では、「会議録は会長が作成する」ことになっているので、一任をお願いしたい。
 - ・ 同指針第5条第3項では、「会議録は会議の初めに会長が指名した二人の出席委員が署名する」ということになっている。
 - ・ 名簿の順番でご指名させて頂きたい。
 - ・ 今回は明石委員と黒瀬委員をお願いしたい。

(9) 議事 ② 「伊丹市行財政審議会傍聴要領（案）」と会議の公開について

<事務局より資料に基づいて説明>

- 会長
- ・ 内容によっては、会長の判断で非公開にする可能性もあるかと思うが、原則として、会議は公開としていくことになると思う。
 - ・ 事務局より説明のあった傍聴要領についてご了承頂けるか。

<「異議なし」の声あり>

- ・ 傍聴定員等の細部については、会長と事務局の間で決めさせて頂く。
- ・ 傍聴希望者があれば、入場させて頂きたい。

<傍聴希望者なし>

(9) 議事 ③ 「伊丹市行財政の現状と課題」について

<事務局より資料に基づいて説明>

- 会長
- ・ 本審議会への諮問事項のうち、「公共施設の有効活用等について」は、利用者目線から見て、積極的に議論する場を設けた方が良いと思う。
 - ・ 審議をより円滑に行うため「伊丹市行財政審議会規則」第7条に基づき、「公共施設の有効活用等について」を専門的な事項の調査審議とし、専門部会を設置したいと思うがよろしいか。

<「異議なし」の声あり>

- 会長
- ・ 同規則第7条第2項に、「専門部会に属すべき委員及び専門委員は会長が指名する」ということになっているので、指名をさせて頂きたい。
 - ・ 田爪委員、角田委員、仲野委員、和田委員、天米専門委員、池田専門委員、庄野専門委員、田中専門委員の8名をお願いしたい。
 - ・ 同規則第7条第3項で、「専門部会に部会長を置き、部会長は部会に属する委員の互選によりこれを定める」となっている。
 - ・ 会長、副会長選出時と同様に事務局案をご提示頂きたいと思うがそれでよろしいか。

<「異議なし」の声あり>

- 事務局
- ・ 部会長は和田委員をお願いしたいと考えている。

<「異議なし」の声あり>

- 会長
- ・ それでは、和田委員に専門部会の部会長をお願いしたい。

(9) 議第 ④ 「伊丹市中長期財政収支見通し（平成26年10月版）」について

<事務局より資料に基づいて説明>

- 会長
- ・ 資料を見る限り、5年間位は財政状況が悪くなることはないが、長期的に見ると急激に財政が悪くなるのが分かっている。
 - ・ この状況を踏まえ、新たな行財政プランの期間の中で、改革案を作っていくことが求められていると思う。
 - ・ 公共施設に関わることについて諮問されている理由は、今の段階からきちんと計画を立てて改革を実施していくというのが、この審議会の検討事項の大きな柱になっているという風にご理解頂ければと思う。

(10) 意見交換

- 会長
- ・ 4つの議題については以上だが、最初の審議会であるので、各委員にそれぞれ意見、コメントを頂きたい。

- A委員
- ・ 伊丹は、非常にコンパクトにまとまった、住みやすい街だと思っている。
 - ・ サービスニーズは地域や年齢によっても様々であると思う。様々なニーズを予測し、考慮しながら、柔軟性を持って、いかに公共施設の更新、削減をまとめていけるかが大事ではないかと思う。
 - ・ 市内の公共交通はほぼバスが担っていると思っており、市民の利便性という意味でも、市としてきちんとコントロールしていく必要があると考えている。
- B委員
- ・ 他市と比べると、伊丹市はまだ考える時間があるという印象を持つ。
 - ・ 人口も若干増えており、労働人口、つまり税金を払う方が、まだ相対的に多いのではないか。
 - ・ 公共施設の更新は、今と同じものを再現するのではなく、集約が不可欠であり、どのように集約するかを考える必要がある。
 - ・ 30年先を見据え、現世代だけではなく、次世代の子ども達の暮らしを想像しながら考えなければならないと思う。
- C委員
- ・ 市の現状を分析された数字等について特に勉強させていただいた。
 - ・ 簡単に公共施設の床面積を10パーセント削減とは言うが、5年間のプランを作っていく中で、どの建物を削減するのか、具体的なことが決まっているのか。
- D委員
- ・ 私は今子育て世代であり、会議では、日々の生活の中で思うことを中心に話していきたい。
- E委員
- ・ 過去に多くの公共施設が建設され、今、ツケが回って来ているのだと思う。
 - ・ 共同利用施設等の地域の施設も、どうするかを今後検討することになると思うが、実際の稼働率等もよく見極め、本当に市民にとって必要な施設のあり方について色々な意見を出していきたい。
- F委員
- ・ 私は伊丹市立市民まちづくりプラザの指定管理者であるが、5年前は、まちづくりプラザの年間来館者数は8千人程度、来館者を増やすために様々思案した。
 - ・ 伊丹市を会社に見立てて、その中で自分の任務は何かを考えた
 - ・ 多世代の方に利用いただけるよう思案し、ここ3年間は、約1万3千

人の方に利用して頂けるようになった。

- ・ 今後、高機能化を考えており、特に、働いておられる方々に、夜間、まちづくりプラザを利用して頂けるような方法を思案している。

- G委員
- ・ 時代と共に地方自治体等も民間の経営を取り入れる、いわゆる自治体経営という視点の仕事が増え、新しい視点を取り入れている自治体が非常に増えていると思う。
 - ・ 民間、自治体それぞれ役目がある中で、互いの良いところを活かし、より効率化し、より良い社会を作れるチャンスにこういう審議会が一層役立つのではないかと思う。
 - ・ 伊丹市は恵まれた状況に現在置かれているので、余裕のある内に先手を打つことは非常にアドバンテージがあると思う。大変な状況になって改革するとなると、市民の方も非常に抵抗があるが、余裕のある内に先手を打つというのは、改革を進めやすいのではないか。

- H委員
- ・ 公共施設マネジメントは、全国共通の課題はあるが、解決策は地域ごとに歴史背景も違い、全く同じ様にはいかないと感じている。
 - ・ 最近では、いわゆる官民連携という所で税金を投入しない公共施設の維持管理・更新という時代の流れになってきている。

- I委員
- ・ 各地域にある共同利用施設の管理・運営について、老朽化していて困っているという話をよく聞く。そういう話を聞くと改修をお願いしたいが、この現状を聞いていると非常に難しいかと思う。
 - ・ 最終的に、これはダメだという施設であっても何とか使ってるものもある。その中で維持管理を踏まえると、最終的には集約化も考えなければならぬ。最終的に集約をするためには、心を鬼にして集約していかなければと考えている。

- J委員
- ・ 藤原市長になってから、学校教育施設は耐震も全て終わり、トイレや教室等も本当に明るく綺麗な学校になっている。ただ、先程もお話しがあったように、単学級の学校や千人を超えるマンモス校がある等、市内の中でも地域格差は大きい。
 - ・ 今後30年で450億円の収支不足と言われると暗くなるが、この5年間である程度の見通しを立てるのは一般市民にとって有難い。
 - ・ 何十年か前、私の地域の学校は開かれており、コミュニティがあったが、今の学校は閉鎖された空間になっていると感じている。子どもが減

っていくなれば、空き教室に地域の公共施設を入れても良いと思う。多くの大人が学校に入ることは、子ども達を見守ってくれる目が増える事を考えると有難い。

- ・ 今後、税収を増やすにはどうしたら良いか。例えば、子育て世代が伊丹市に引っ越して来てでも住みたいと思えるような教育環境であるとか、大企業や最先端の企業を誘致できるような仕組みを作るである等、税収が減るから、支出の削減は大前提だが、いろいろな方策について話ができれば、この会議の価値も上がると思っている。

○会長

- ・ 余裕のある時に手を打つことは企業でも難しい。この審議会の議論の難しさは、今から将来を見据えて、余裕のあるうちに打つ手をどの程度踏み込んで考えることができるかであると思う。

(11) 諸連絡 (省略)

(12) 閉会